

平成26年度 上越市特別活動部 活動報告

部長 長谷川 敬子

1 研究主題

よりよい人間関係を築く特別活動

2 研究の概要

上越市では、小中学校の県費負担教職員で上越市学校教育研究会を組織している。本部会は、その中の部会の一つであり、会員は、研究計画のもとに実践を積み重ね、秋の一斉研修で講話を聞いたり、互いの取組を紹介し合ったりして実践力の向上に努めている。

上越市においても人間関係の希薄化が大きな問題となっている。今年度上越市の特別活動部は、「よりよい人間関係」に焦点をあて、特に学級活動、学級づくりにおける教師の在り方や人間関係づくりについて研修を行った。

3 研究の実際

(1) 研究の進め方

研究主題に沿って全員が実践を重ねる（4月～11月）

11月に市学校教育研究会特別活動部研修会を開催する。

(2) 秋の研修会の概要

- ・期日 平成26年11月12日（水）
- ・内容 講演会、情報交換（各自の実践、講演の感想等）
- ・講師 高崎経済大学非常勤講師 橋本 定男 様
- ・演題 「よりよい人間関係を築く実践のための『適切な指導』を考える」
- ・講演の概要
 - ・学級経営に必要なもの。二つの目とナマズのヒゲ。とことん子どもに寄り添うこと（虫の目）と学級集団を見ること（鳥の目）。さらに予知するナマズのヒゲが必要。
 - ・学級づくりの二本柱は、母性原理と父性原理。条件なしにあなたはここに居ていいよという温かい母性と、皆でつくったルールはみんなで守るという厳しい父性。
 - ・特別活動二つのアプローチ 子ども中心：旧学級会活動 と 教師主導：旧学級指導
 - ・学級活動二つのアプローチ 見える手（授業での教師の出番）と見えざる手（日常的に個々にかかわるいわゆる根回し・・・仕掛け）見えざる手は裏文化とも言えるが、様々な学級の問題を解決する為に非常に重要である。全体に話す量の2倍も個々の子どもにアプローチせよ。
 - ・学級会の授業ビデオから 子どもに論点を整理させている映像、対話のありかた指導（相手の弱いところを付いているばかりの発言で教師の「この雰囲気はおかしい」と精神を教える姿）が印象的。
- ・情報交換 小・中学校混合の小グループにて実施。じっくりとした話し合いの重要性、根回し、見えざる手のアプローチを実践したいなどの感想。気になる生徒への対応に迷っていた教諭は母性と父性の原理から次の一手が見えたなど。学級会について充実させたいという意見多数。



4 成果と課題

講演からは、学級経営の要諦を知る事ができた。講演の中で流れた学級会の映像は、話し合いでの教師の出場の素晴らしさを全員が痛感した。日常の「見えざる手」がいかに重要かがよく分かった。来年度は授業公開で学び合いたい。